

スリランカ

Democratic Socialist Republic of Sri Lanka

	2011年	2012年	2013年
①人口：2,048万人（2013年央）			
②面積：6万5,610km ²			
③1人当たりGDP：3,162米ドル （2013年）			
④実質GDP成長率（%）	8.2	6.3	7.3
⑤消費者物価上昇率（%、年平均）	6.7	7.6	6.9
⑥失業率（%）	4.2	4.0	4.4
⑦貿易収支（100万米ドル）	△9,710	△9,417	△7,609
⑧経常収支（100万米ドル）	△4,615	△3,982	△2,607
⑨外貨準備高（100万米ドル、 期末値）	6,248	6,378	6,611
⑩対外債務残高（グロス） （100万米ドル、期末値）	32,748	37,098	39,741
⑪為替レート（1米ドルにつき、 スリランカ・ルピー、期中平均）	110.57	127.60	129.07

〔注〕②を除き2013年は暫定値、2012年は一部改訂値
〔出所〕①②④～⑩：スリランカ中央銀行「Annual Report 2013」、③⑨⑪：IMF

2013年のスリランカの実質GDP成長率は7.3%と前年を上回る成長となった。全産業部門が好調で実質GDP成長率の伸びに貢献した。また、財政赤字抑制などのマクロ経済安定化政策の効果もあり、インフレ率は5年連続して1桁台となった。さらに、輸出増と輸入減により貿易収支が改善された。対内直接投資も不動産開発や通信業、化学・石炭・石油関連業で拡大している。

■実質GDP成長率は7%超え

2013年の実質GDP成長率は7.3%と前年の6.3%を上回る高い伸びを記録した。最終消費支出は前年比3.2%増にとどまったが、国内総固定資本形成が9.2%増、財貨・サービスの輸出が5.9%増と順調な伸びを示した。2012年に導入されたマクロ経済安定化政策に加えて、スリランカ中央銀行による政策金利の引き下げを含む金融緩和や、繊維製品・衣料品と紅茶の輸出増にも支えられた。

生産面からみると、農林水産業はコメの生産が20%近

表1 スリランカの産業別実質GDP成長率

	2012年		2013年	
	成長率	構成比	成長率	構成比
実質GDP成長率	6.3	100.0	7.3	100.0
農林水産業	5.2	11.1	4.7	10.8
農林業	4.7	9.7	4.5	9.5
水産業	9.3	1.3	6.2	1.3
工業	10.3	30.4	9.9	31.1
鉱業	18.9	2.8	11.5	2.9
製造業	5.2	17.1	7.5	17.1
電力・ガス・水道	4.2	2.4	10.3	2.4
建設業	21.6	8.1	14.4	8.7
サービス業	4.6	58.6	6.4	58.1
卸・小売業	3.7	23.0	5.5	22.7
ホテル・レストラン	20.2	0.7	22.3	0.8
運輸・通信業	6.2	14.3	9.4	14.6
銀行、保険、不動産	6.7	8.9	5.9	8.7
住宅・宅地所有	1.7	2.5	2.9	2.4
行政サービス	1.4	6.8	2.8	6.5
個人サービス	5.5	2.3	7.3	2.3

〔出所〕スリランカ中央銀行から作成

く伸びたものの、天候不順によるゴムやココナツの生産縮小が影響し、前年比4.7%増にとどまった。工業は、製造業が7.5%増、建設業が14.4%増と好調であったこともあり、9.9%増となった。GDPの6割近くを占めるサービス業は、前年は3.7%増にとどまっていた卸・小売業（貿易業含む）が5.5%増となり、運輸・通信業が6.2%増から9.4%増（うち郵便・通信業が7.9%増から11.4%増）へと伸び幅が拡大し、全体でも6.4%増となった。

財政面については、歳入、歳出のGDP比が過去5年間で15.0%、24.9%から13.3%、19.2%と縮小している。歳出がより大きく減少しており、財政赤字のGDP比は5.9%と過去5年間で初めて5%台に抑制された。1人当たりGDPは、2009年の2,057ドルから2013年には3,162ドルへと4年間で53.7%も増加した。

■輸出増と輸入減とで貿易赤字は前年比約20%縮小

2013年の貿易は、輸出が前年比6.4%増の103億9,430万ドル、輸入は6.2%減の180億280万ドルとなった。2012年に取られた政府の輸入抑制策の効果もあって輸入が引き続き減少した一方、米国、EUといった主要輸出先国の景気回復により輸出が2年ぶりに増加に転じた。その結果、貿易赤字額は19.2%減の76億850万ドルに縮小した。

輸出の内訳をみると、農水産物（前年比10.7%増）と

表2 スリランカの主要品目別輸出入<通関ベース>

(単位:100万ドル、%)

	2012年	2013年		
	金額	金額	構成比	伸び率
輸出総額	9,774	10,394	100.0	6.4
工業製品	7,371	7,749	74.6	5.1
繊維製品・衣料品	3,991	4,508	43.4	13.0
ゴム製品	859	888	8.5	3.3
石油製品	463	428	4.1	△7.6
宝石・ダイヤモンド・宝飾品類	559	446	4.3	△20.3
食品・飲料・たばこ	284	235	2.3	△17.3
機械・機器	298	312	3.0	5.0
印刷業製品	42	36	0.3	△13.2
輸送用機械	165	146	1.4	△11.3
皮革・旅行用品・履物	55	77	0.7	38.6
セラミック製品	36	40	0.4	12.8
その他工業製品	619	633	6.1	2.2
農水産物	2,332	2,581	24.8	10.7
紅茶	1,412	1,542	14.8	9.2
ゴム	125	71	0.7	△43.0
ココナツ	209	205	2.0	△2.1
香辛料	256	355	3.4	38.8
野菜	13	25	0.2	87.2
タバコ葉	42	48	0.5	12.8
その他の農産物	76	101	1.0	33.3
水産物	198	234	2.2	18.0
鉱業品	61	52	0.5	△15.8
分類不能	10	12	0.1	27.1
輸入総額	19,190	18,003	100.0	△6.2
消費財	2,995	3,183	17.7	6.3
食料品・飲料品	1,304	1,368	7.6	4.9
コメ	24	18	0.1	△26.6
砂糖・砂糖菓子	347	291	1.6	△16.2
乳製品	307	291	1.6	△5.3
レンズ豆	69	104	0.6	50.9
その他	557	664	3.7	19.3
その他消費財	1,691	1,814	10.1	7.3
自動車	495	582	3.2	17.6
医薬品	372	378	2.1	1.6
家電製品	219	192	1.1	△12.0
衣類・アクセサリ	175	202	1.1	15.6
その他	431	460	2.6	6.9
中間財	11,578	10,554	58.6	△8.8
石油製品	5,045	4,308	23.9	△14.6
繊維製品	2,266	2,046	11.4	△9.7
ダイヤモンド・貴金属	588	483	2.7	△17.8
化学製品	670	734	4.1	9.6
小麦・トウモロコシ	364	323	1.8	△11.2
肥料	311	239	1.3	△23.2
その他中間財	2,334	2,421	13.4	3.7
資本財	4,590	4,253	23.6	△7.3
建設資材	1,237	1,357	7.5	9.7
輸送用機械	992	668	3.7	△32.7
機械・機器	2,356	2,222	12.3	△5.7
その他資本財	5	6	0.0	28.9
分類不能	28	14	0.1	△49.8

[注] 2012年は改定値、2013年は暫定値。

[出所] スリランカ中央銀行「Annual Report 2013」から作成

工業製品(5.1%増)は前年の輸出額を上回り、鉱業品(15.8%減)のみが前年を下回った。最大の輸出品目で輸出額の4割強を占める繊維製品・衣料品は、主要輸出先であるEUと米国経済の回復もあり、13.0%増の45億830万ドルを記録し、輸出拡大の原動力となった。スリラン

表3 スリランカの主要国・地域別輸出入<通関ベース>

(単位:100万ドル、%)

	2012年	2013年		
	金額	金額	構成比	伸び率
輸出総額	9,774	10,394	100.0	6.4
米国	2,126	2,494	24.0	17.3
英国	1,059	1,078	10.4	1.8
インド	567	544	5.2	△4.1
イタリア	508	511	4.9	0.6
ドイツ	455	468	4.5	2.9
ベルギー、ルクセンブルク	533	449	4.3	△15.8
ロシア	262	280	2.7	6.9
アラブ首長国連邦(UAE)	223	237	2.3	6.3
日本	217	224	2.2	3.2
フランス	177	195	1.9	10.2
EU27	3,228	3,273	31.5	1.4
SAARC	762	773	7.4	1.4
輸入総額	19,190	18,003	100.0	△6.2
インド	3,640	3,171	17.6	△12.9
中国	2,667	2,953	16.4	10.7
シンガポール	1,683	1,682	9.3	△0.1
アラブ首長国連邦(UAE)	1,289	1,179	6.5	△8.5
オマーン	106	772	4.3	628.3
日本	552	668	3.7	21.0
マレーシア	811	570	3.2	△29.7
インドネシア	418	439	2.4	5.0
タイ	458	437	2.4	△4.6
台湾	365	435	2.4	19.2
EU27	1,780	1,665	9.2	△6.5
SAARC	4,036	3,587	19.9	△11.1

[注] ①2013年は暫定値。総額にはその他諸外国を含む。

②SAARC(南アジア地域協力連合)は、インド、パキスタン、バングラデシュ、スリランカ、ネパール、ブータン、モルディブ、アフガニスタン。

[出所] スリランカ中央銀行「Annual Report 2013」から作成

カ中央銀行の報告書は、輸出拡大について、①市場の多角化への対応、②製品に関する専門知識の取得、③製造業者による原料・部品の仕入れ先の系列化や内製化という後方垂直統合による対応能力の強化、④製品の高付加価値化、に力を入れたことを理由に挙げている。

輸出額2位の紅茶は前年比9.2%増の15億4,220万ドルと過去最高を記録した。紅茶1キロ当たりの平均輸出価格は2013年に4.82ドルと前年比で9.3%上昇しているが、輸出量自体は3億1,967万トンで2012年と同水準である。中央銀行は紅茶の輸出額増加について、①高品質を反映してセイロン・ティーに高値が付けられたこと、②スリランカは世界最大のオーソドックス製法(紅茶の伝統的な製法)による紅茶の輸出国であり、そのオーソドックス製法の紅茶に対して国際的な需要が高まったこと、が輸出額増の要因と分析している。

3位以下は、ゴム製品(8億8,780万ドル、前年比3.3%増)、宝石・ダイヤモンド・宝飾品類(4億4,550万ドル、20.3%減)、石油製品(4億2,770万ドル、7.6%減)と前年同様に工業製品が続いている。農水産物輸出に関しては、国内市場でのゴム需要増などによりゴムの輸出は43.0%減と大幅に減少したが、香辛料(38.8%増)、水産物(18.0%

増)などは前年を上回った。

輸出を相手国・地域別にみると、繊維製品・衣料品の主要輸出相手国である米国(24億9,400万ドル)、英国(10億7,800万ドル)が5年連続で1位、2位となった。3位以下は、香辛料、輸送機器、機械・機械設備等の輸出先であるインド(5億4,400万ドル)、衣料品の主要輸出先国であるイタリア、ドイツ、宝石・ダイヤモンド・宝飾品類の主要輸出先であるベルギー、ルクセンブルク、紅茶の主要輸出先であるロシア、アラブ首長国連邦(UAE)が続き、日本は9位である。

輸入については、中間財(105億5,370万ドル、前年比8.8%減)、資本財(42億5,270万ドル、7.3%減)とも前年を下回り、消費財(31億8,250万ドル、6.3%増)のみが前年を上回った。主要品目別にみると、全体の23.9%を占める最大の輸出品目である石油製品が、火力発電利用の低下、国際市場における石油価格の下落により、14.6%減の43億820万ドルとなった。他の中間財も、繊維製品(9.7%減)、ダイヤモンド・貴金属(17.8%減)など、化学製品を除き軒並み前年比で減少した。

資本財についても、2012年に実施された輸入抑制政策を反映して、輸送用機械(前年比32.7%減)、機械・機器(5.7%減)の輸入額がいずれも減少した。一方、政府・民間それぞれの大型インフラ開発による需要増に伴い、セメント、鉄鋼、アルミニウム製品など建設資材の輸入は9.7%増を記録した。

一方、前年は減少した消費財は、野菜や水産品などの食料品に加え、自動車や衣料品などの輸入が増加した結果、前年比6.3%増の31億8,250万ドルとなった。

国・地域別では、全体の17.6%を占めるインドが引き続き最大の輸入相手国だったが、輸入額は前年比12.9%減と減少した。対インドの主要輸入品は、石油製品、繊維製品、建設資材などで、これら品目はインド・スリランカFTAの対象品目外にもかかわらず、スリランカ国内市場で大きなシェアを維持している。2位の中国からは機械設備や繊維製品、建設資材などが、3位のシンガポールからは石油製品や機械設備などが、それぞれ主な輸入品となっている。また、原油の主要輸入先がイランからオマーンに移行した結果、オマーンからの輸入額が7倍以上の7億7,200万ドルとなり、5位の輸入相手国に躍進した。日本の順位は6位となっている。

■中国とのFTA交渉が進展中

対外経済関係について、二国間ではインド(2000年3月発効)とパキスタン(2005年6月発効)との自由貿易協定(FTA)を締結し、多国間では、南アジア自由貿易地域(SAFTA、2006年1月発効)を発足させている。

インド・スリランカFTA(ISFTA)に関しては、両国間の貿易・投資のさらなる促進を模索するために、インド・スリランカ共同タスクフォース第1回会合が2013年6月に開催された。この結果、ISFTAの下で、インド向け800万枚の衣料品輸出割り当てのうち500万枚に関する条件が撤廃されて関税が全て無条件でゼロとなるなど進展があった。さらに、インドとの間では包括的経済連携協定(CEPA)についても交渉中である。

パキスタン・スリランカFTA(PSFTA)については、いくつかの未合意事項を議論するための第5回商業次官レベル技術会合が2013年4月に開催された。この結果、蚊取り線香、ボトル冷却機、天然ココナツオイル、キンマの葉(噛みたばこ用)、ハーブ製化粧品^かの5品目について優遇措置が講じられることになった。

なお、2013年の貿易収支については、対インド(輸出:5億4,400万ドル、輸入:31億7,100万ドル)、対パキスタン(輸出:8,300万ドル、輸入:3億7,800万ドル)ともスリランカの大幅な入超となっている。

一方、新たな動きとして、中国とのFTA締結に関する動きがある。2014年3月に開かれたスリランカと中国との二国間協議において、FTAの実行可能性に関する合同調査が終わり、近々FTA交渉を進めると発表されている。

■対内直接投資は微増でインフラ関連が牽引

2013年のスリランカへの対内直接投資額(FDI)(スリランカ投資庁認可・企業ベース、実行額、ネット、フロー)は13億9,140万ドルと、前年比4.0%増にとどまった。

内戦終結後の過去4年間(2010~13年)の対内直接投資動向をみると、業種別では常にインフラ関連が最大の投資額を記録しており、2013年は前年比31.9%増の7億8,680万ドルと総額の56.5%を占めるに至った。

インフラ関連の内訳をみると、電話・通信ネットワーク分野が48.6%増の3億5,980万ドルとなり、2010年からインフラ関連分野内で1位となっている。また、住宅物件開発・店舗・オフィス分野への投資は3.9倍の2億1,760万ドルと急増した。2012年以降コロボ市内・近郊では、外資による高級コンドミニアムや複合商業施設の建設ラッシュが始まっていたが、これらの動きは実際の投資額にも反映されつつある。

製造業については、繊維・衣料・皮革製品、ゴム製品、化学・石炭・石油製品、非金属・鉱物製品の各分野への投資が伸長した結果、16.9%増の3億5,980万ドルとなった。特に化学・石炭・石油製品と非金属・鉱物製品企業への投資増加が目立っている。

表4 スリランカの業種別対内直接投資 (FDI)
 <BOI認可・企業ベース、実行額、ネット、フロー>
 (単位:100万ドル、%)

	2012年		2013年	
	金額	金額	構成比	伸び率
製造業	308	360	25.9	16.9
食品・飲料・たばこ	76	50	3.6	△34.5
繊維・衣料・皮革製品	87	103	7.4	18.3
木材・木製品	2	2	0.1	△28.2
紙・紙製品・印刷・出版	4	2	0.2	△48.1
化学・石炭・石油製品	16	52	3.8	234.2
非金属・鉱物製品	18	45	3.3	155.5
金属加工・機械・輸送機械	39	17	1.2	△56.3
ゴム製品	44	62	4.5	42.8
その他製造業	23	27	1.9	18.1
農業	7	8	0.6	18.2
サービス業	427	236	17.0	△44.6
ホテル・レストラン	117	68	4.9	△42.1
IT・BPO	26	19	1.4	△25.5
その他サービス	284	149	10.7	△47.4
インフラ関連	597	787	56.5	31.9
住宅物件開発・店舗・オフィス	56	218	15.6	290.4
電話・通信ネットワーク	242	360	25.9	48.6
発電	30	5	0.4	△82.7
燃料・ガス・石油・その他	66	40	2.9	△40.1
港湾コンテナ・ターミナル	202	165	11.8	△18.7
合計	1,338	1,391	100.0	4.0

[注] BOI法に基づく認可案件。

[出所] スリランカ投資庁 (BOI) 資料を基に作成

表5 スリランカの主要国・地域別対内直接投資 (FDI)
 <BOI認可・企業ベース、実行額、ネット、フロー>
 (単位:100万ドル、%)

	2012年		2013年	
	金額	金額	構成比	伸び率
中国	185	240	17.2	29.7
マレーシア	47	176	12.7	272.1
香港	259	139	10.0	△46.3
オランダ	56	118	8.5	112.3
シンガポール	88	112	8.0	26.8
アラブ首長国連邦(UAE)	214	111	8.0	△47.9
英国	38	70	5.0	85.8
インド	160	51	3.6	△68.5
日本	26	38	2.7	45.8
米国	27	35	2.5	32.1
カナダ	14	26	1.9	87.3
モリシャス	66	23	1.6	△65.9
ルクセンブルク	37	21	1.5	△42.5
その他	121	231	16.6	90.3
合計	1,338	1,391	100.0	4.0

[注] BOI法に基づく認可案件。

[出所] スリランカ投資庁 (BOI) 資料を基に作成

サービス業への投資は全分野で前年比減となり、44.6%減の2億3,630万ドルにとどまった。ホテル開発自体は進行中だが、2011~12年に比べて新規の大型案件がやや減少したことによるものとみられる。

国・地域別にみると、コンテナターミナル開発の一部、通信ネットワーク、不動産開発を含む中国からの投資額が前年比29.7%増の2億3,990万ドルで1位となった。2位はマレーシアで、通信ネットワーク関連を中心に3.7倍の1億7,620万ドルの投資額となった。3位は香港で、

上記コンテナターミナル開発の一部のほか、靴製造、通信ネットワーク拡大、高級ホテル開発などが主な案件となっている。このほか、化学製品製造や通信ネットワークの案件などによりオランダが4位に躍進した。一方、上位常連国であるUAE、インドが上位10カ国に入っているが、いずれも前年比大幅減となっている。

■日本からの投資は引き続き再投資が中心

財務省の「貿易統計 (通関ベース)」によると、日本の対スリランカ貿易は、輸出が前年比57.3%増の568億3,400万円、輸入が31.0%増の289億3,200万円となった。内訳をみると、スリランカからの主な輸入品は、食料品および動物 (112億7,000万円、うち紅茶51億6,400万円、マグロ19億9,300万円、甲殻類および軟体動物19億200万円)、衣類および同付属品 (56億6,200万円、うち衣類32億6,600万円)、石油製品 (21億1,900万円) であった。スリランカからの輸入品の約4割を食品が占め、約2割を衣類等が占め、その他構成比は小さいが石油製品の輸入額が激増した。

スリランカへの輸出品は、輸送用機器 (394億4,800万円、うち中古乗用車255億1,400万円)、一般機械 (52億9,100万円、うち原動機12億100万円、建設用・鉱山用機械10億9,900万円) が中心であり、スリランカへの輸出品のうち約45%が中古乗用車となっている。

2013年の日本の対スリランカ直接投資は、前年比45.8%増の3,760万ドルで、国別では9位となった。傾向として既進出企業の拡張投資が中心で、業種は製造業が多い。投資額は伸びているものの、大規模な新規投資は実現していない。一方、2014年に入って佐川急便を傘下に持つSGホールディングス (SGH) がスリランカの物流大手のエクスポランカを子会社化する動きがあった。これは両者の持つネットワークを一体化してビジネス拡大を狙うものだ。スリランカが南アジア最大のコンテナ港を有し、アジアと欧州を結ぶ海上航路上に位置するという物流拠点としての優位性に着目した動きといえよう。

■急成長をテコに、投資拡大へ

ジェットロが実施した「日スリランカ・ビジネスニーズ調査」(2013年6~10月実施) では、スリランカの投資環境上の優位性として、①安定した政治・社会情勢、②人材の質の高さ、③経済成長のポテンシャル、④地理的優位性を挙げている。その一方で、優先的に解決すべき課題として、①製造業を担う労働力、高度産業人材の不足、②一貫した産業政策の欠如、③スリランカ投資庁 (BOI) の機能不足、を挙げている。今後はスリランカ政府による一層の投資環境の改善が期待される。